

＜危機打開の考え方＞

第1：囲碁界の困難

「19路盤の世界」と考えてください



【現状】

支部・会員が激減
幹部・担い手は高齢化
若い世代に広がっていない
囲碁を知らない企業トップの増大
スポンサー減少・棋戦消滅の危機

【原因】

つながっていない＝情報共有不能
「顧客」につながっていない

「顧客が大事だ」の意識がない

「教え方の標準化」ができていない

たくさんの先進的な取り組みがあるが、
効果的に活用する仕組みがない

「宝の山」は持ち腐れ、

二千年の財産、資源を消費し尽くした
自分が当事者(対局者)の意識がない

【次び起きる事態】

全国支部の崩壊

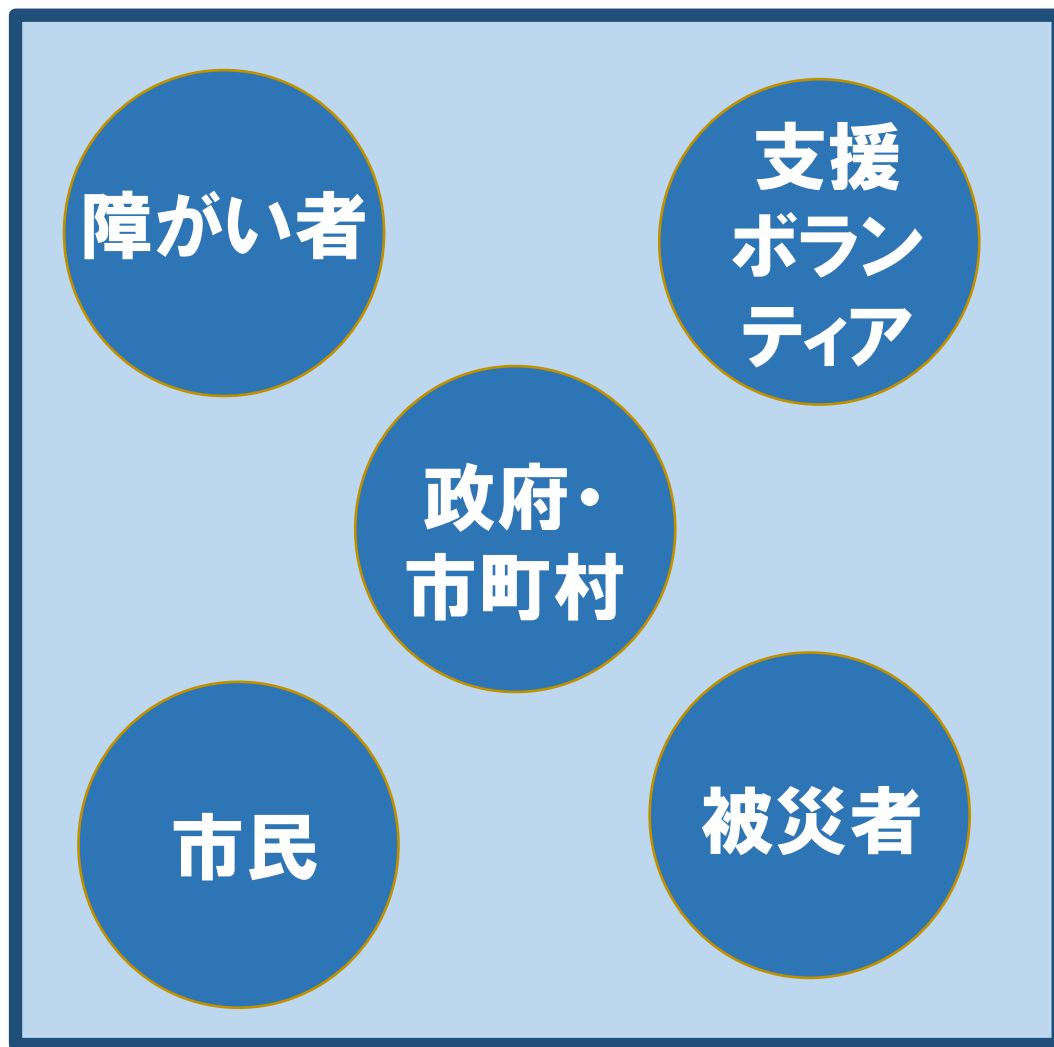
＝「一人の担い手」がいなくなったとき

スポンサーの減少、棋戦消滅

日本棋院の崩壊

伝統文化(＝囲碁)の消滅

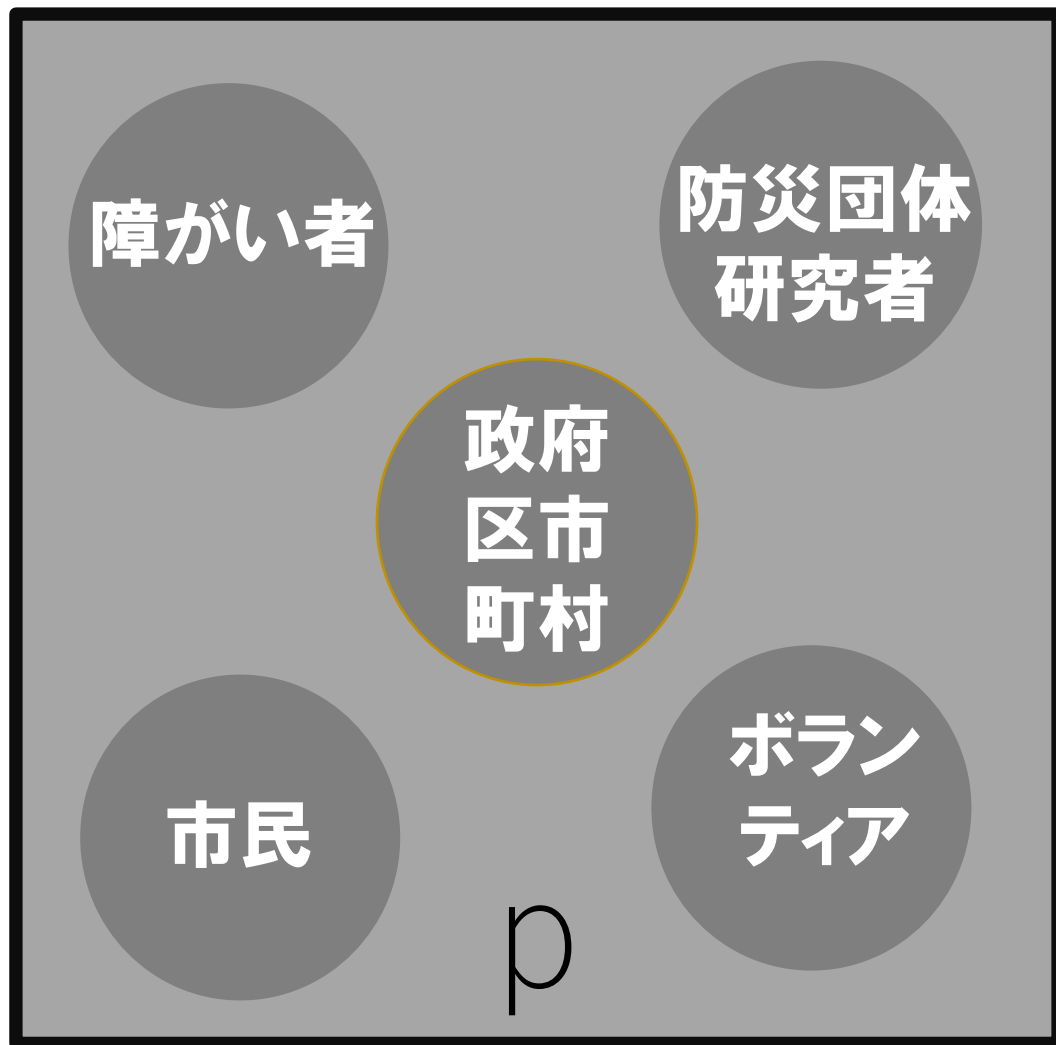
第2 被災地の困難(これもまた「19路盤」の世界)



インフラは復興したが
消費地から遠く、地域は広い。
過疎化・高齢化が加速した。
若者は高校後、地元を離れる。
支援活動はほとんどなくなった。
・・・何をしたいか、分からない。
観光資源＝景観・食・地域芸能
・・・近隣にも、日本中にもある
魚が取れなくなった。
共同体機能が維持できなくなる。
次の大地震の脅威。

この先、どうなるのか？
何をすればよいのか？
もう、どうにもならない。

第3 防災の困難(これも「19路盤」)



首都直下地震の切迫
巨大水害の恐怖
コロナで避難所は「三密」
担い手の高齢化
災害資源(物資、人間)は足りない
膨大団体は「何かやればいい」意識
「地震など来ない／自分だけは死
なない」意識＝正常性バイアス
「自分は何とかなっている」意識
NPO、研究者の「縦割り」意識
＝細分化した領域のみに関心
復旧を阻む6千万トンのコンガラ
何をするにも時間がない
そして、巨大災害の切迫
すさまじい衝撃が連続で来る
首都直下で日本の中樞が打撃
「南海トラフで日本は世界最貧国」

第4 障がい者の困難(これも「19路盤」)

当事者
・家族

団体
研究者

政府
区市
町村

市民

ボラン
ティア

当事者・家族は大きな困難。

…特に、中途障がい者と家族
「高齢化」と異なり、

障がいの態様がたくさんある

「国民全員の問題」ではない

当事者、家族、担い手も高齢化

「自分の障がいが最重要」意識

他の障がい者団体と関係が薄い

「大事な問題を世が理解しない」

「担い手が拡がらない」

「行政の理解がない」

「国民の理解がない」

…

この先、どうなるのか？

何をすればよいのか？

多くに共通する問題状況

- 1 自分の世界(19路盤)だけで解を見つけだそうとしている。
- 2 「世に理解・普及が広がらない」という共通意識
- 3 担い手が高齢化・・・自治会などを含め、すべての団体に共通
- 4 「誰かに責任が」と考える傾向(「自分にも責任が」とは考えない)
- 5 大きな脅威が切迫化、深刻化、現実化している
- 6 しかし、「何とかなるだろう」と考えている(=正常性バイアス)
- 7 あるいは、「もう、どうにもならない」と考えている(簡単に諦め)
- 8 「どうでもいい、俺の知ったことか」と考えている(「自分だけ」)

困難を抱えた人だけが危機を打開できる

- 1 自分が「対局者」であることを理解する。
- 2 情報を共有し、知恵と力を集め、交差させる。
- 3 広い世界(超大碁盤「38路盤」)で次の一手を見つけ出す。
- 4 ご一緒に、楽しく、元気を出して「次の一手」を打ちましょう。

「現実の世界(超大碁盤=38路盤) を「囲碁の力」でつなぐ



◎三隅テーマは事例＝私たちが既につながっている身近な世界です。

80人のMLメンバーは、更に色々なつながりをお持ちだと思います。

経済、雇用、超高齢化、過疎、環境、教育、国際関係など、たくさんの課題がありますが、

一度に全部は取り組みません。
それほど大きな力はありません。

◎「人と人をつなぐ囲碁の力」でまず、身近な世界を支援します。

⇒知恵と力を集め、

小さな取組み(「三つの緊急提案」)を成功させます。

◎メディアの力の活用

日本棋院、各団体、みらくるTV、Zoom碁チャンネルなどをフル活用

次に大手メディアの力を借ります。

⇒「風向き」が少し変わります。

⇒更に広範な方々とつながり、

「流れ」が変化し始めます。

今回は「最初の一手」です。